

＜白金標準、ペナントレンジ（保合い）からの離脱待ち・・・＞



（出所：オアシス）

生産者物価指数（PPI）や消費者物価指数（CPI）の低下を受けたインフレ抑制の動きに米国経済に対する景気減速懸念が強まりを見せたが、小売売上高が上昇するなど米国の景気減速懸念を払しょくしハードランディングからソフトランディングの見方が強まりを見せている。ただインフレ抑制の動きに過度な利下げを織り込む動きを見せ、為替市場では円高・ドル安の動きへ傾く動きを見せている。

特に週末のカンザスシティ連銀主催のFRB年次シンポジウムでパウエルFRB議長は講演で「政策を調整する時が来た」と発言し、「物価の安定に向けて一段と前進しながら、強い労働市場を支えるために全力を尽くす」と述べた事から今後はインフレから景気へ配慮した動きを見せて来ると思われる。またアングロアメリカプラチナやインパラプラチナム、ノーザムプラチナなどの企業決算の発表を控え、損失計上等赤字決算が予想されるなど供給不足を補うことは難しい状況であり、中央銀行の金融政策の変更は従来景気商品へ明るい要因へ結び付くと思え、今後4400円で底固めの値動きを行うように思える。

＜テクニカル＞

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDは上昇し、シグナルも上昇している。RCIでは短期は下げているが、長期は切り上げるなど、目先底値を確認した値動きに思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引1,380,000円(2024年8月26日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復68,640円(2024年8月26日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話03-5540-8423(受付時間:平日8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>